患者向医薬品ガイド

2024年2月更新

メトジェクト皮下注7.5mgシリンジ0.15mL
メトジェクト皮下注10mgシリンジ0.20mL
メトジェクト皮下注12.5mgシリンジ0.25mL
メトジェクト皮下注15mgシリンジ0.30mL
メトジェクト皮下注7.5mgペン0.15mL
メトジェクト皮下注10mgペン0.20mL
メトジェクト皮下注12.5mgペン0.25mL
メトジェクト皮下注15mgペン0.30mL

【この薬は？】

販売名	メトジェクト皮下注7.5mgシリンジ0.15mL Metoject Subcutaneous Injection 7.5mg Syringe 0.15mL	メトジェクト皮下注10mgシリンジ0.20mL Metoject Subcutaneous Injection 10mg Syringe 0.20mL	メトジェクト皮下注12.5mgシリンジ0.25mL Metoject Subcutaneous Injection 12.5mg Syringe 0.25mL	メトジェクト皮下注15mgシリンジ0.30mL Metoject Subcutaneous Injection 15mg Syringe 0.30mL
一般名	メトトレキサート Methotrexate			
含有量 (1シリンジ中)	7.5mg／0.15mL	10mg／0.20mL	12.5mg／0.25mL	15mg／0.30mL

販売名	メトジェクト皮下注7.5mgペン0.15mL Metoject Subcutaneous Injection 7.5mg Pen 0.15mL	メトジェクト皮下注10mgペン0.20mL Metoject Subcutaneous Injection 10mg Pen 0.20mL	メトジェクト皮下注12.5mgペン0.25mL Metoject Subcutaneous Injection 12.5mg Pen 0.25mL	メトジェクト皮下注15mgペン0.30mL Metoject Subcutaneous Injection 15mg Pen 0.30mL
一般名	メトトレキサート Methotrexate			
含有量 (ペン1本中)	7.5mg／0.15mL	10mg／0.20mL	12.5mg／0.25mL	15mg／0.30mL

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

・この薬は、抗リウマチ剤と呼ばれるグループに属する注射薬です。
・この薬は、免疫機能をつかさどっているリンパ球や、炎症に関係している細胞の働きを抑えます。関節リウマチで異常な状態となっている免疫反応や炎症反応を抑えることで、関節の腫れや痛みの症状を改善します。
・次の病気の人に処方されます。

関節リウマチ

・この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者さんまたは家族の方は、自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減したりせず、医師の指示に従ってください。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○この薬は長期にわたり使用し続けることが多く、また、使用している間に重篤な副作用があらわれることもあるので、この治療の必要性や注意すべき点等について十分に理解できるまで説明を受けてください。
○この薬を使用している間に、重篤な副作用があらわれることがあります。以下の症状が認められた場合には、ただちに医師に連絡してください。
　発熱、咳（から咳など）、呼吸困難、口内炎、全身がだるい
○腎臓の機能が低下している人は副作用が強くあらわれることがあるので、この薬の使用前および使用中に、腎機能検査が行われます。
○次の人は、この薬を使用することはできません。
・妊婦または妊娠している可能性がある人
・過去にメトジェクトに含まれる成分やメトトレキサート製剤で過敏症のあった人
・骨髄抑制がある人
・慢性肝疾患がある人

・腎臓に障害のある人
・胸水、腹水などがある人
・活動性結核（治療が必要な結核）の人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。
・感染症にかかっている人または感染症が疑われる人
・過去に結核にかかったことのある人または結核の感染が疑われる人
・Ｂ型肝炎ウイルスにかかっている人、または過去にかかったことがある人（ＨＢｓ抗原陰性、かつＨＢｃ抗体またはＨＢｓ抗体陽性）、Ｃ型肝炎ウイルスにかかっている人
・間質性肺炎や肺線維症などの肺障害がある人、または過去にこれらの疾患と診断されたことがある人
・水痘（みずぼうそう）にかかっている人
・毎日飲酒している人
・妊娠する可能性のある人
・授乳中の人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

○この薬の使用前に、臨床検査（血液や肝機能、腎機能、尿などの検査）が行われます。

○この薬の使用前に、肺疾患を確認するために、胸部Ｘ線検査が行われます。必要に応じて、胸部ＣＴ検査などが行われることもあります。

○この薬の使用前に、結核感染を確認するために、問診および胸部Ｘ線検査に加え、インターフェロン-γ 遊離試験またはツベルクリン反応検査が行われます。必要に応じて、胸部ＣＴ検査などが行われることもあります。

○この薬を使用する前に血液検査で、肝炎ウイルスに感染しているかどうかが確認されます。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

〔自己注射する場合〕

●使用量および回数

使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。
通常、使用する量および回数は、次のとおりです。

一回量	７．５mg シリンジまたは７．５mg ペン１本
使用回数	１週に１回

・あなたの状態に応じて使用量は増減されますが、１回量として１５mg は超えません。

●どのように使用するか？

・自己注射を開始する前には、必ず医師または看護師から自己注射のしかたに関して十分に理解できるまで説明を受けてください。
・注射部位は大腿部、腹部または上腕部を選び、順番に場所を変更し、短期間に同一部位へ繰り返し注射は行わないでください。注射部位は毎回異なる部位（対

側など）に行ってください。
・１回の注射について注射器は１本です。１回に全量を使用し、再使用しないでください。
・皮膚が敏感な部位、皮膚に異常のある部位（傷、発赤、硬結等）には注射しないでください。
・シリンジまたはペンの安全な廃棄方法に関する指導を受けてください。また使用済みのシリンジまたはペンを廃棄する容器の提供を受けてください。

●使用し忘れた場合の対応

この薬は、１週間のうち決められた日に使用しますので、決して２回分を一度に使用しないでください。気がついたら、自己判断せずに医師に連絡し、指示に従ってください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

・誤って多く使用してしまった場合、血液障害（発熱、出血が止まりにくい）、消化管障害（吐き気、腹痛、便に血が混じる）などの症状があらわれることがありますので、ただちに受診してください。場合により、死亡にいたるとの報告もあります。
・過量使用の治療薬としてホリナートカルシウム（ロイコボリンカルシウム）があります。

〔医療機関で使用される場合〕

使用量、使用回数、使用方法などは、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において皮下に注射されます。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

・誤った使い方や過度の使用により、重篤な副作用があらわれることがあるので、患者さんまたは家族の方は正しい使用方法について十分に理解できるまで説明を受けてください。
・この薬は１週間のうち決められた日に、決められた量だけ使用します。指示されていない日には使用しないでください。
・この薬の使用中は、肺疾患や結核感染を確認するため、胸部Ｘ線検査などが行われます。
・この薬の使用中は通常４週間ごとに臨床検査（血液や肝機能、腎機能、尿などの検査）があります。
・Ｂ型肝炎ウイルスにかかっている人、または過去にかかったことがある人（ＨＢｓ抗原陰性、かつＨＢｃ抗体またはＨＢｓ抗体陽性）、Ｃ型肝炎ウイルスにかかっている人は、この薬の使用中や使用終了後に継続して検査が行われます。また、発熱、全身がだるい、皮膚や白眼が黄色くなる、食欲不振などがあらわれた場合は、速やかに医師に連絡してください。
・この薬を使用している間は生ワクチン［麻疹（はしか）、風疹（ふうしん）、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）、ＢＣＧなど］の接種はできません。接種の必要がある場合は、医師に相談してください。
・出血性腸炎、消化管潰瘍・出血等の消化管障害、感染症、出血傾向の発現また

は増悪、悪性リンパ腫、リンパ増殖性疾患、急性白血病、骨髄異形成症候群（ＭＤＳ）等があらわれることがあるので、下記の症状に気づいた場合はただちに医師に連絡してください。

口内炎、激しい腹痛、嘔吐（おうと）、下痢、発熱、全身がだるい、食欲不振、出血しやすい

また、結核を疑う症状が発現した場合（持続する咳、発熱等）には速やかに医師に連絡してください。

・妊婦または妊娠している可能性がある人はこの薬を使用することはできません。
・本人あるいはパートナーの方がこの薬を使用している間は、妊娠しないように注意してください。また、この薬を使用している間に妊娠がわかった場合には、すぐに医師に相談してください。
・性腺（生殖腺）に副作用があらわれやすくなります。今後子供を望まれる場合は、医師に相談してください。
・妊娠を希望する女性は、この薬を中止した後少なくとも 2 回目の生理が認められるまでは、妊娠しないように注意してください。
また、男性の場合は、この薬を中止した後少なくとも 3 カ月間は、パートナーが妊娠しないように注意してください。
・授乳を避けてください。
・高齢の人は腎機能等生理機能が低下していることが多く、メトトレキサートの排泄遅延により副作用があらわれやすくなります。また、免疫機能低下の影響を受けやすく、重篤な感染症があらわれやすいため慎重に使用してください。
・この薬により、体の抵抗力が弱まり、かぜなどの感染症にかかりやすくなることがあります。人ごみを避けたり、外出後は手洗いやうがいなどをしたり、感染症にかからないように気をつけてください。
・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

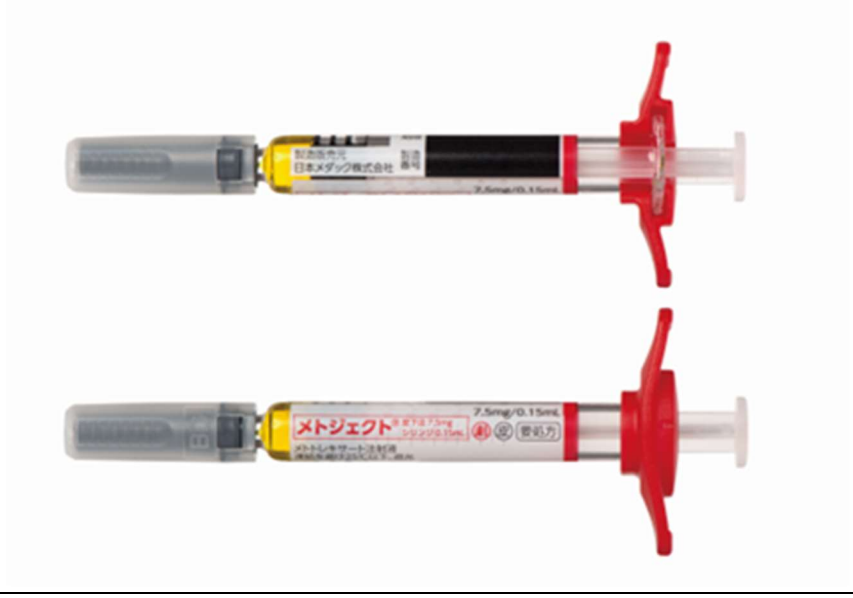
重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どうき）、息苦しい
骨髄抑制 こつずいよくせい	発熱、寒気、喉の痛み、鼻血、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい、頭が重い、動悸、息切れ
感染症 かんせんしょう	発熱、寒気、体がだるい
結核 けっかく	寝汗をかく、体重が減る、体がだるい、微熱、咳が続く

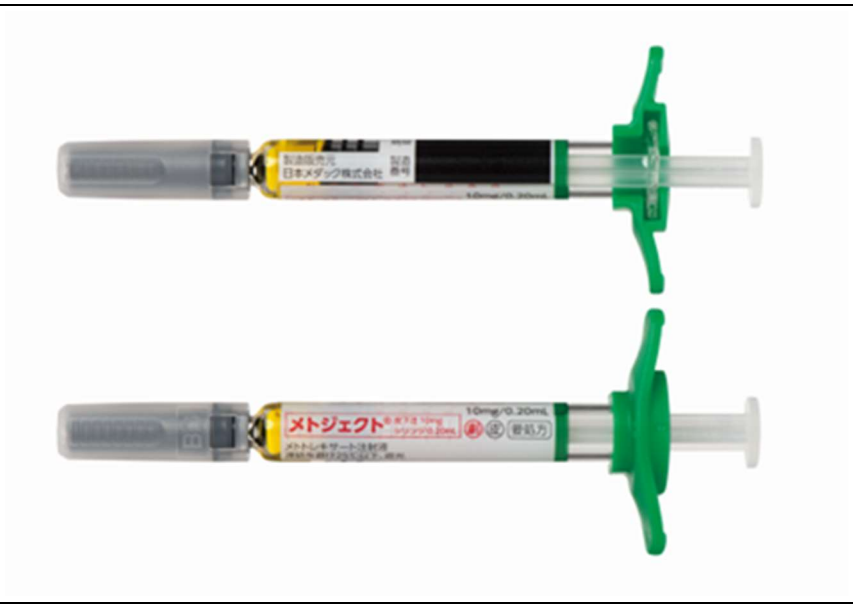
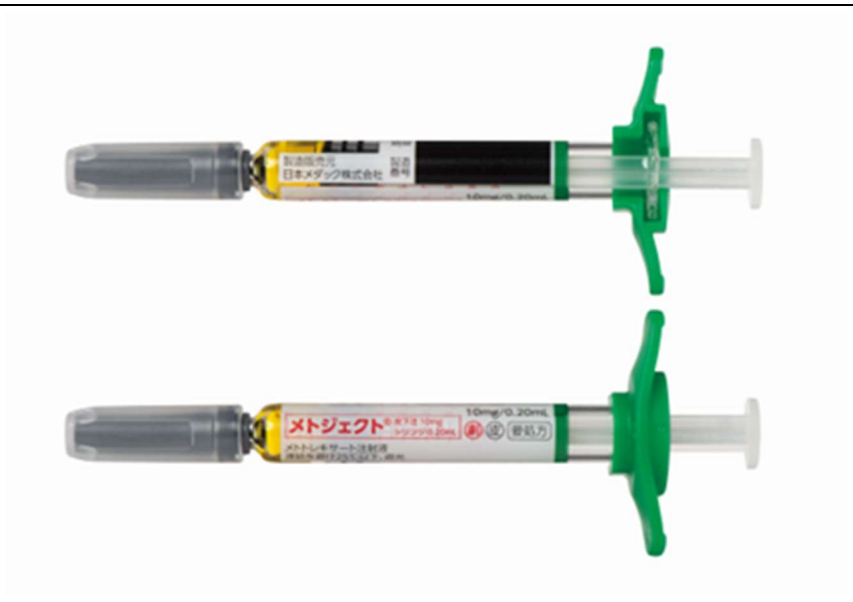
劇症肝炎 げきしょうかんえん	急な意識の低下、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）
肝不全 かんふぜん	意識の低下、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい
尿細管壊死 にょうさいかんえし	尿量が減る、むくみ、体がだるい
重症ネフロパチー じゅうしょうネフロパチー	尿量が減る、むくみ、体がだるい、高血圧
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
肺線維症 はいせんいしょう	咳、息切れ、息苦しい、発熱
胸水 きょうすい	息苦しい、息切れ、咳、胸の痛み
中毒性表皮壊死融解症（ＴＥＮ） ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう（テン）	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群（スティーブンス・ジョンソン症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん（スティーブンス・ジョンソンしょうこうぐん）	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
出血性腸炎 しゅっけつせいちょうえん	激しい腹痛、血が混ざった下痢、発熱、ふらつき、息切れ
壊死性腸炎 えしせいちょうえん	突然の激しい腹痛、血が混ざった下痢、お腹が張る、嘔吐、冷汗が出る、顔面蒼白、手足が冷たくなる
膵炎 すいえん	強い腹痛、背中の痛み、お腹が張る、吐き気、嘔吐、体重が減る、喉が渇く、尿量が増える、皮膚が黄色くなる、油っぽい下痢が出る
骨粗鬆症 こつそしょうしょう	骨折しやすい、腰・背中の痛み、手足の痛み、背が低くなった、背中が丸くなった
脳症（白質脳症を含む） のうしょう（はくしつのうしょうをふくむ）	意識の低下、意識の消失、考える力の低下、記憶力の低下、異常な行動、けいれん、自分の意思とは関係なく身体が動く、歩行時のふらつき、口のもつれ、動作が鈍くなる
進行性多巣性白質脳症（ＰＭＬ） しんこうせいたそうせいはくしつのうしょう（ピーエムエル）	けいれん、意識の低下、意識の消失、しゃべりにくい、物忘れをする、手足のまひ

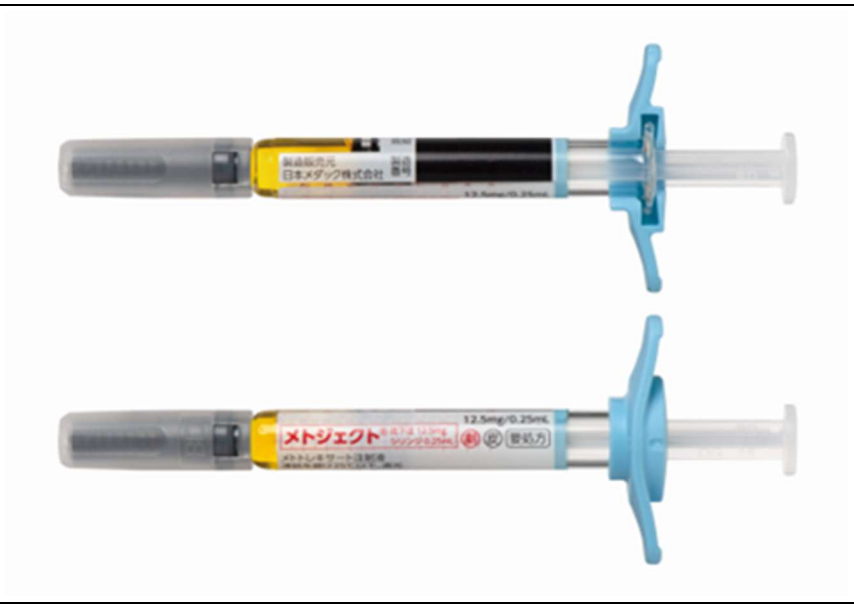
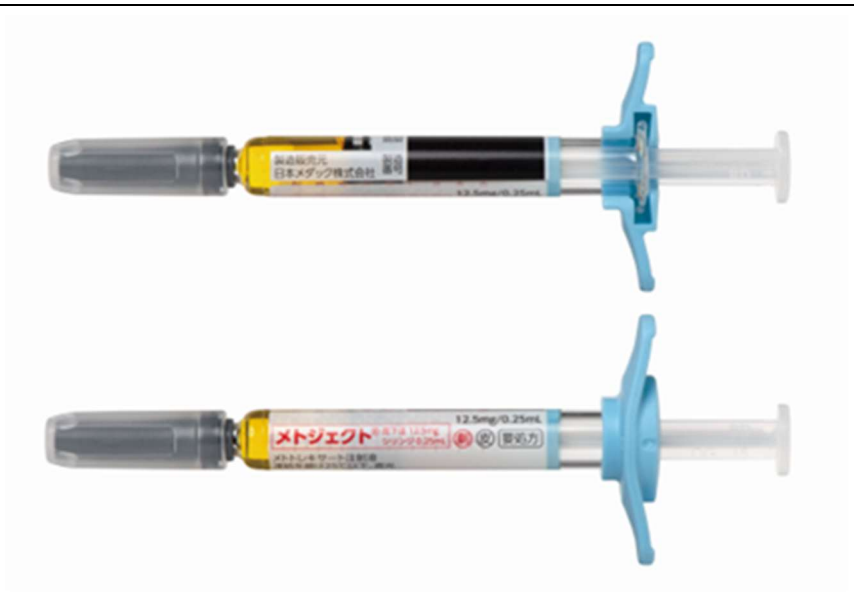
以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

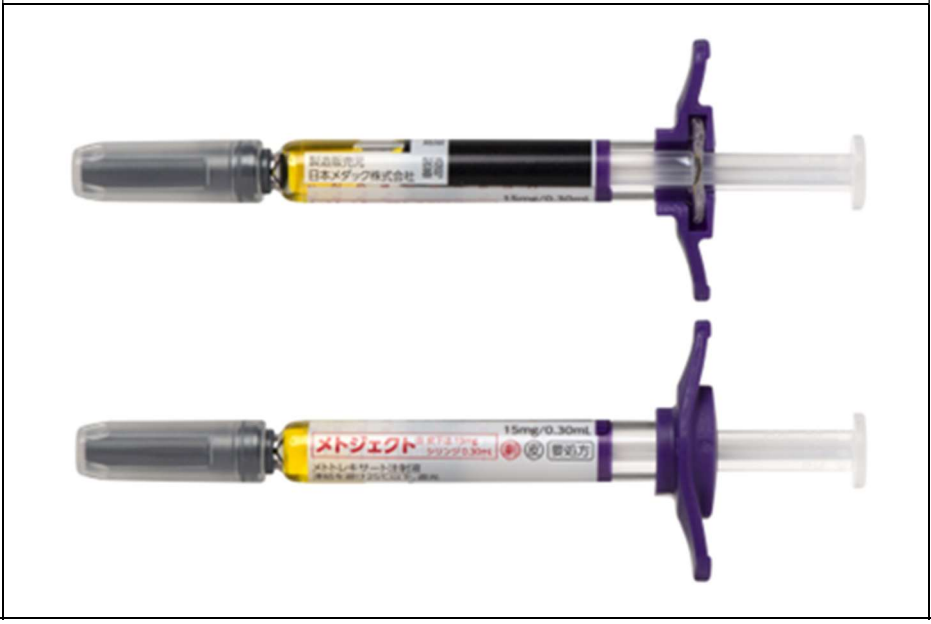
部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、ふらつき、発熱、寒気、出血が止まりにくい、体がだるい、寝汗をかく、体重が減る、微熱、体がかゆくなる、急激に体重が増える、むくみ、骨折しやすい、背が低くなった、けいれん、自分の意思とは関係なく身体が動く、動作が鈍くなる
頭部	めまい、意識の消失、頭が重い、急な意識の低下、意識の低下、考える力の低下、記憶力の低下、異常な行動、物忘れをする
顔面	顔面蒼白、鼻血
眼	白目が黄色くなる、目の充血やただれ
口や喉	喉のかゆみ、喉の痛み、歯ぐきからの出血、咳が続く、血を吐く、咳、唇や口内のただれ、嘔吐、吐き気、喉が渇く、口のもつれ、しゃべりにくい
胸部	動悸、息苦しい、息切れ、胸の痛み
腹部	お腹が張る、激しい腹痛、突然の激しい腹痛、強い腹痛
背中	背中の痛み、腰・背中の痛み、背中が丸くなった
手・足	手足が冷たくなる、手足の痛み、歩行時のふらつき、手足のまひ
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹、あおあざができる、皮膚が黄色くなる、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
便	便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）、血が混ざった下痢、油っぽい下痢が出る
尿	尿の色が濃くなる、尿量が減る、尿量が増える
その他	高血圧

【この薬の形は？】

メトジェクト皮下注 7.5mg シリンジ 0.15mL		性状
外観		黄褐色の澄明な液

メトジェクト皮下注 10mg シリンジ 0.20mL		性状
外観		黄褐色の澄明な液
		

メトジェクト皮下注 12.5mg シリンジ 0.25mL		性状
外観	 	黄褐色の澄明な液

メトジェクト皮下注 15mg シリンジ 0.30mL		性状
外観	 	黄褐色の澄明な液

	メトジェクト皮下注 7.5mg ペン 0.15mL	性状
外観		黄褐色の澄明な液
	メトジェクト皮下注 10mg ペン 0.20mL	
	メトジェクト皮下注 12.5mg ペン 0.25mL	
	メトジェクト皮下注 15mg ペン 0.30mL	

【この薬に含まれているのは？】

販売名	メトジェクト 皮下注 7.5mg シリンジ 0.15mL	メトジェクト 皮下注 10mg シリンジ 0.20mL	メトジェクト 皮下注 12.5mg シリンジ 0.25mL	メトジェクト 皮下注 15mg シリンジ 0.30mL
	メトジェクト 皮下注 7.5mg ペン 0.15mL	メトジェクト 皮下注 10mg ペン 0.20mL	メトジェクト 皮下注 12.5mg ペン 0.25mL	メトジェクト 皮下注 15mg ペン 0.30mL
有効成分	メトトレキサート			
添加剤	塩化ナトリウム、pH 調整剤（水酸化ナトリウム）			

【その他】

●この薬の保管方法は？

・注射器の入ったケースをそのまま、凍結を避けて２５℃以下で保管してください。
・直射日光を避けて保管してください。
・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

・絶対に他の人に渡してはいけません。
・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

●廃棄方法は？

・使用済みの注射器については、医療機関の指示どおりに廃棄してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

販売会社：エーザイ株式会社（https://www.eisai.co.jp/）
hhc ホットライン
電話：フリーダイヤル ０１２０－１５１－４５４
受付時間：９時～１８時（月～金） ９時～１７時（土、日、祝日）